

1 学校教育目標

自ら学び向上し合う生徒 心豊かで協力し合う生徒 健やかでたくましい生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・向学の精神に満ちた学校 ・礼儀と豊かな心を育む学校 ・夢や志をもち、主体的に自分の進路を切り開く生徒を育む学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさを知り、主体的に学習に取り組む生徒 ・他人を思いやり、礼儀正しい生徒 ・夢や志をもち、実現に向けて根気強く努力する生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じて学び続ける意欲のある教師 ・生徒のよさや可能性を引き出し伸ばすことができる教師 ・指導力や教科等の専門性を高め、主体的な学びを支援する教師 ・保護者や地域、関係諸機関との連携を図り、生徒の健全育成に努める教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

本校の重要課題である「学力向上」は、昨年度、区学力調査で3教科とも区平均通過率を上回った。継続している学力向上の取組が成果としてあらわれた結果となった。これからは、基礎学力の定着と主体的な学習による課題解決力の育成が求められている。そのために、授業規律をしっかりと身に付けさせ、落ち着いた環境で学習活動に取り組み、充実した教育活動を展開させていく。

【前年度の成果】

- 生徒アンケートによると「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒が83%であった。
 - 生徒アンケートによると「学校行事などに積極的に参加している」の質問に肯定的な回答をした生徒が82%であった。
 - 生徒アンケートによると「学校の決まりを守って生活している」の質問に肯定的な回答をした生徒が92%であった。
 - 生徒アンケートによると「授業はわかりやすいか」の質問に肯定的な回答が90%を超えた教科が6教科、80%を超えた教科が3教科であった。
- 一年間をかけて取り組んできた成果と捉え、さらなる向上に努めていく。

【前年度の課題】

- 主体的な家庭学習習慣や学習に取り組む態度が十分に身に付いていない。
- 一人に一台配布されたタブレット端末について、授業における生徒の活用頻度は週1回以上活用している教員が47%であった。授業における十分な活用には至っていない。
- 協働的な学びや課題解決学習等、コミュニケーション能力が十分身に付いていない。
- 地域に貢献できる大人になりたいという態度の育成が課題。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	キャリア教育の充実	○	○	○	○	○
3	人権教育の推進			○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン				
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
区学力調査の目標値通過率の維持と向上		令和6年度調査 3科平均75%		自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み						
新・ 継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)
1 新規	授業における生徒のタブレット機器の活用率向上	全学年 5教科	毎授業	各教科、授業で月1回以上活用する。「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図る。	教員アンケート	12月末時点で活用率100%以上
2 継続	朝学習におけるAIドリル活用	全生徒 英語 数学 国語 理科 社会	火～金曜日 始業前15分	【指導体制】担任・国語科・数学科・英語科・社会科・理科 【取り組み内容・ねらい】毎朝、学習内容の復習・確認を行い、基礎学力の定着を図る。	教員アンケート	月に1週以上AIドリルを活用
3 継続	AIドリルの授業内導入	全学年 5教科	毎授業	前時の振り返りもしくは本時の振り返り、確認テストでAIドリルを活用し学習定着度を確認する。	教員アンケート	12月末時点で月に1回以上の活用率100%

自己評価の際に記入

4 継続	放課後補充 教室 (熱血!花 保塾)	全学年 5教科	月・火・ 木・金 15:20 ~16:00	【指導体制】学年教員・5教科の 教科担任 【取り組み内容、ねらい】授業中 に分からなかったことの質問の 場とする。また、朝学確認テスト 未実施者や自主学習ノートなど の宿題の未提出者を対象とした 指導の場とする。 【使用教材】各教科のノート・プ リント・ワーク	課題の完成や 分からなかつ た問題の理解 により、達成 とする。	生徒の課題達 成率 80%を目 指す。	自己評価の際に記入
5 継続	夏季補充教 室	1・2年 数・英 3年5教科 各教科で補 習の必要な 生徒を選出 各学年約15 名程度	7月22 日~26 日(5日 間) 各教科 50分	【指導体制】担任・教科担任・学 年担当教員・学習支援ボランティア 【取り組み内容、ねらい】当該年 度の前半期の内容でつまづきを 解消する。教科担任・学年教員・ サポートメンバーによって少人 数指導を行う。ワークの問題の解 き直しや週の授業内容で理解が 完全でない内容の補充問題を行 う。【使用教材】プリント教材・ ワーク等	課題の完成と 学習内容の確 認テストの実 施	一人一人が課 題目標を達成 したと回答し た生徒80%以 上	
6 継続	水曜放課後 自習教室	全教科	毎 週 水 曜日	自学自習の習慣を身に付ける 場として、NPO 法人カタリバ と連携し水曜放課後2時間程 度、全学年を対象とした自習 教室を開設する。	生徒アンケート	利用した生徒のう ち「勉強のやり方 が身に付いた」と 回答する生徒が 80%以上	
7 継続	小中連携の 充実	各教科	全学年 全員	足立スタンダードに基づいた 授業について研鑽を積み、ICT 機器、AI ドリルの活用や課題 解決型授業を実施する。	教員アンケート	自己の授業改善に 役立ったと回答す る教員が80%以上	

重点的な取組事項-2		キャリア教育の充実		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分の将来についてより明確かつ具体的 な目標を定めることで生きることの意味 を見出し、前向きな学校生活を送ることが できるようにする。	生徒アンケートで肯定的評価80%以 上		自己評価の際に記入	

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体験活動	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	全学年全生徒を対象にした職業講話(花保未来ラボ)や職業調べ、職業体験を実施し、働くことへの理解と意欲の向上を図る。	自己評価の際に記入		
ボランティアマインド	生徒アンケートでボランティア活動について肯定的評価 60%以上	地域などの行事にボランティアとして活動することで社会への帰属意識を高める。			
学校行事	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	魚沼自然教室、修学旅行、運動会、文化祭などの学校行事を通して、主体的な活動への意欲と、目標をもって取り組む姿勢をもたせる。			

重点的な取組事項－3	人権教育の推進
-------------------	---------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
楽しく学び合い『わかる・できる』ことを目指す授業と居心地のいい学校・学級づくり	WEBQUで学級生活満足群の全国値を上回る。	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み					
---------------	--	--	--	--	--

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
福祉プロジェクト	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	1年次車いす体験、2年次認知症サポーター養成講座、3年次高齢者声掛け訓練を実施する。これらの体験を通じて、障がい者や介護に関する理解を深め、心のバリアフリーを浸透させる。	自己評価の際に記入		
ポジティブな行動支援の取組	生徒アンケートで自己肯定感について肯定評価 70%以上	学校独自のポジティブな行動支援の取組を充実させることで、人権に一層配慮した教育活動を展開できるようにする。			

ユニバーサルデザインを取り入れた授業	生徒アンケートで授業について肯定的評価 85%以上	安心できる学級・居心地のよい学級づくりを行い、「わかった・できた」授業を行う。	
--------------------	---------------------------	---	--

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）